

研究テーマ：語彙力を増やすための指導の工夫

所属 高知東高等学校
氏名 三浦 理々
R G S H 4

1 研究の背景

対象…1年生4・5ホーム(29名) 習熟度別編成(ABC)クラスのBクラス
長期休業明けにクラス替えがある。

実態

- ・全体的には落ち着きがあり反応もあるが、3・4人の生徒が集中力を欠き、私語を始める。
- ・自主的・積極的な取り組みはあまり見られず、試験期間を除いては家庭学習をする生徒がほとんどいないため、既習事項の定着がなされていない。

2 リサーチクエスション

単語ワークシート等をどのように使えば、生徒の語彙力を増し、高校で習った英単語の意味を7割程度言えるようにできるか。

3 予備調査

予備調査1 授業観察の結果

授業の内容が分からなくなった時、すぐに「分かりません。」と言って、手を挙げる生徒もいるし、黙っている生徒もいる。また、おしゃべりを始める生徒もいる。ただ、どの生徒も、一対一で説明するとほぼ理解できるので、こまめに個々の生徒の理解度を確認し、忘れる前に復習をするような指導が必要である。

予備調査2 英語力を示すデータ

中学校で習った単語の中から100語(50問選択、50問記述)を抜き出しテストを実施した。選択問題では50問中平均で37問、記述では50問中31問の正答で、全体の平均点は68点であった。

予備調査3 生徒の自己評価

練習問題の後、be動詞、三単現のS、否定文の作り方、疑問文の作り方のそれぞれについて自己評価させた結果、三単現のSの理解が他の3つの項目に比べ低かった。中学時代にこのあたりでつまづいたままの生徒が多いのではないだろうか。また、アンケートの結果からも中学2年で授業が分からなくなってきたと答えた生徒が9名いた。

4 仮説の設定

仮説1 綴りを覚える前に同じ単語を繰り返し発音練習することにより、単語に慣れ親しみ綴りを覚えやすくなるだろう。

仮説2 本文の音読を様々な方法で実践することで、単語と意味が一体化し、単語を覚えやすくなるだろう。

仮説3 授業中こまめに単語テストを行い、4月に遡って、復習のテストを実施すると定着するのではないだろうか。

5 計画の実践

1. 単語練習用ワークシート（単語道場）を用いて、時にはリズムマシーンも併用し、授業の warm-up に発音練習することを習慣化した。
2. 本文の空所つきワークシート等を用いて、意味を意識しながら音読させた。
3. 9月に Lesson 6 の本文の音読テストを実施。その際時間を計り、自然なスピードを目指すよう指導した。11月には Lesson 8 の本文の一部を暗唱テストした。
4. 単語小テスト（10問）、復習テスト（30問）を頻繁に実施した。

6 実践の結果

12月の最後の授業で、Lesson 1 から Lesson 8 までの本文に出てきた語句の中から100の語句について、その意味を日本語で書くテストを行った。その結果、出席者26人の平均点は66.5点と、目標の7割にはもう一步のところであった。また、夏休み明けに習熟度別クラス編成によるクラス替えがあったため、対象生徒が半数程度変わるという事態が生じたが、4月から引き続きいる生徒14名について実践結果を見てみると、次のような結果が得られた。

生徒	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	平均点
中学の単語 100	欠	80	68	51	81	72	80	54	82	71	欠	64	80	63	70.5
高校の単語 100	66	94	61	52	56	64	欠	74	76	63	64	欠	83	40	66.1

いずれにしても、テスト語のアンケートに、ワークシートを利用した活動が効果的であったと多くの生徒が答えている。また、英語 I の授業で、どの分野の力がどの程度ついたか質問したところ、単語力がついたと答えた生徒が最も多かった。

7 結果の検証

4月以降に習った単語の66.5%の意味が言えるという結果は、まずまずの結果だと言えると思う。今回試験対象にした語・句は181で、そのうちの100語について出題した。テストの前に、復習小テストを4回行ったが、範囲のすべてをカバーすることができなかったため、復習できなかった部分については正答が少なかった。目的意識を持って取り組ませることにより、一定の結果が得られることを実感できた。

音読にもかなり力を入れたつもりだが、生徒の語彙力にどの程度影響したかは定かでない。ただ、Lesson 6 の語句テスト（30問、日本語を英語にする）では、スペル問題にもかかわらず30点満点で平均点が21点と高く、本文の音読テストと併せて行ったことが良かったのではないと思われる。

8 成果と今後の課題

アクション・リサーチを行うことで、系統だった計画的指導ができたことが何よりも大きな収穫であった。生徒の反応に一喜一憂し、場当たりの活動に終わっていた活動を見直し、目標達成に向けて、一つ一つの活動を意味のあるものにできたことや、生徒に対して、「語彙力をつけるためにいっしょに頑張っていこう。」と語りかけることができたことは生徒の授業を受ける姿勢にも影響したと感じている。

アンケート結果からみても、単語力が「とてもついた」・「まあまあついた」と答えた生徒が26人中22人いるので、生徒自身が語彙力をつけるために意識的に取り組み、その結果を肯定的にとらえていると言えると思う。

しかし、覚えた単語も実際の会話ではなかなか出てこないだろうし、その多くは初めて目にする文章の中では認識できないだろう。また、テスト数日後には忘れていくかもしれない。一度覚えた単語を実際に使わせる活動につないでいく工夫が必要である。今後は、実際に使える単語を増やす活動を取り入れていきたい。

〈参考文献〉

- 『アクション・リサーチのすすめ』 佐野正之 編著 大修館書店
『成長するティップス先生』 池田輝政 他著 玉川大学出版部